



brain train2

4月10日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

4月10日のおはなし「brain train2」

目の前を魚が泳いで行く。きらり、きらり、と鱗を光らせて。その光のつぶつぶが、わたしの目の前にふわふわ漂う。はるか向こうには黄金色に輝く麦畑。豆畑の緑にくろぐろと縁取られ、まるで光がそこから溢れ出しているようだ。子どもたちの歓声のように。

わたしは歩く。買ったばかりのジョギングシューズで跳ねるように歩く。跳ねるように？ 跳ねるようにどころか、実際に跳びはねながら歩く。遠ざかった地表を眺めながら、こんなに跳び上がったことはないなあと考える。考えたところで、これはきっと夢の中なんだと思う。

そのとたんにわたしは自由になる。わたしの身体から自由になる。わたしの年から自由になる。わたしの性別から自由になる。わたしの時間から自由になる。わたしはぐんぐん広がりすべてを受けとめる。見るのでも聞くのでも嗅ぐのでも味わうのでも触れるのでもない。ただすべてを受けとめる。

そうじゃない。

ここにはもう、受けとめるわたしすらない。

わたしがすべてになる。すべてがわたしになる。

わたしは笑う。世界が笑う。何年も前に亡くなった兄が現れてご機嫌だねという。お兄ちゃんもと言おうとするけどわたしには身体もないし口もないから声にならない。それでは口をあげようとしてどこかから聞こえてきてわたしには口ができる。すかさずその口がふさがれてしまう。熱くとろけるような口づけ。ふりむくとそれはやっぱりムベキで、ムベキはわたしにあの頃の身体を与え抱きしめ愛してくれる。ムベキを受け入れたわたしの身体はいくつもに引き裂かれ枝分かれし、そのひとつひとつがぷりぷりとした官能の塊になる。

多肉植物になったわたしのまわりにみんなが集まってきて、わたしをなで、つまみ、さすり、もみ、むしりとして食べてしまう。あまりの気持良さにわたしはあられもない声を上げ続ける。けれど、多肉植物のわたしにはもう口がないのでその声はほとんど誰にも聞こえない。わたしと、兄と、ムベキだけがそれを聞き、分かち合う。

そうやってわたしはどんどん増殖してみんなの中に入っていくんだ。みんなの中に入り、ゆっくり動き、あるいは激しく動き、みんなを愛し、呻き声をあげさせる。列車の振動に合わせて極限まで快樂の縁をたどる。しとどに汗をかいてぐったりとした彼女の中から自分を引き出すとわたしは君に口づけをする。ああムベキ。と君は言う。わたしはムベキじゃないよと言おうとするけれど、同時にわたしは自分がムベキだということも知っている。

きらきらと光の粒をまきちらし魚が目の前にやってくる。口吻の先にアロエをくわえ運んできてくれる。ギフトを届けてくれたのかい？ とわたしか君かどこかの誰かが言って、はちきれそうな愛の肉塊を指先につまみ、半開きになった誰かの口におしこむとそれはぷちぷちと音を立ててはじけ、口元から溢れそうなジュースをほとばしらせ、無限に拡散する無邪気な笑い声を引き出す。

(「多肉植物」 ordered by さんぽ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

brain train2

<http://p.booklog.jp/book/48022>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/48022>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/48022>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.